

ImageDataGenerator

ImageDataGeneratorクラス

```
keras.preprocessing.image.ImageDataGenerator(featurewise_center=False, samplewise_center=False,
```

リアルタイムにデータ拡張しながら、テンソル画像データのバッチを生成します。また、このジェネレータは、データを無限にループするので、無限にバッチを生成します。

引数

- **featurewise_center**: 真理値。データセット全体で、入力の平均を0にします。
- **samplewise_center**: 真理値。各サンプルの平均を0にします。
- **featurewise_std_normalization**: 真理値。入力をデータセットの標準偏差で正規化します。
- **samplewise_std_normalization**: 真理値。各入力をその標準偏差で正規化します。
- **zca_epsilon**: ZCA白色化のイプシロン。デフォルトは1e-6。
- **zca_whitening**: 真理値。ZCA白色化を適用します。
- **rotation_range**: 整数。画像をランダムに回転する回転範囲。
- **width_shift_range**: 浮動小数点数（横幅に対する割合）。ランダムに水平シフトする範囲。
- **height_shift_range**: 浮動小数点数（縦幅に対する割合）。ランダムに垂直シフトする範囲。
- **shear_range**: 浮動小数点数。シアー強度（反時計回りのシアー角度）。
- **zoom_range**: 浮動小数点数または[lower, upper]。ランダムにズームする範囲。浮動小数点数が与えられた場合、`[lower, upper] = [1-zoom_range, 1+zoom_range]`です。
- **channel_shift_range**: 浮動小数点数。ランダムにチャンネルをシフトする範囲。
- **fill_mode**: {"constant", "nearest", "reflect", "wrap"}のいずれか。デフォルトは'nearest'です。指定されたモードに応じて、入力画像の境界周りを埋めます。
 - "constant": `kkkkkkkk|abcd|kkkkkkkk (cval=k)`
 - "nearest": `aaaaaaaa|abcd|dddddddd`
 - "reflect": `abcd dcba|abcd|dcba abcd`
 - "wrap": `abcdabcd|abcd|abcdabcd`
- **cval**: 浮動小数点数または整数。`fill_mode = "constant"`のときに境界周辺で利用される値。
- **horizontal_flip**: 真理値。水平方向に入力をランダムに反転します。
- **vertical_flip**: 真理値。垂直方向に入力をランダムに反転します。
- **rescale**: 画素値のリスケーリング係数。デフォルトはNone。Noneか0ならば、適用しない。それ以外であれば、(他の変換を行う前に) 与えられた値をデータに積算する。
- **preprocessing_function**: 各入力に適用される関数です。この関数は他の変更が行われる前に実行されます。この関数は3次元のNumpyテンソルを引数にとり、同じshapeのテンソルを出力するように定義する必要があります。
- **data_format**: {"channels_first", "channels_last"}のどちらか。`"channels_last"`の場合、入力のshapeは `(samples, height, width, channels)` となり、`"channels_first"`の場合

ル `~/.keras/keras.json` の `image_data_format` の値です。一度も値を変更していなければ, "channels_last"になります。

- **validation_split**: 浮動小数点数。検証のために予約しておく画像の割合（厳密には0から1の間）です。

例

`.flow(x, y)` の使用例:

```
(x_train, y_train), (x_test, y_test) = cifar10.load_data()
y_train = np_utils.to_categorical(y_train, num_classes)
y_test = np_utils.to_categorical(y_test, num_classes)

datagen = ImageDataGenerator(
    featurewise_center=True,
    featurewise_std_normalization=True,
    rotation_range=20,
    width_shift_range=0.2,
    height_shift_range=0.2,
    horizontal_flip=True)

# compute quantities required for featurewise normalization
# (std, mean, and principal components if ZCA whitening is applied)
datagen.fit(x_train)

# fits the model on batches with real-time data augmentation:
model.fit_generator(datagen.flow(x_train, y_train, batch_size=32),
                    steps_per_epoch=len(x_train) / 32, epochs=epochs)

# here's a more "manual" example
for e in range(epochs):
    print('Epoch', e)
    batches = 0
    for x_batch, y_batch in datagen.flow(x_train, y_train, batch_size=32):
        model.fit(x_batch, y_batch)
        batches += 1
    if batches >= len(x_train) / 32:
        # we need to break the loop by hand because
        # the generator loops indefinitely
        break
```

`.flow_from_directory(directory)` の使用例:

```

train_datagen = ImageDataGenerator(
    rescale=1./255,
    shear_range=0.2,
    zoom_range=0.2,
    horizontal_flip=True)

test_datagen = ImageDataGenerator(rescale=1./255)

train_generator = train_datagen.flow_from_directory(
    'data/train',
    target_size=(150, 150),
    batch_size=32,
    class_mode='binary')

validation_generator = test_datagen.flow_from_directory(
    'data/validation',
    target_size=(150, 150),
    batch_size=32,
    class_mode='binary')

model.fit_generator(
    train_generator,
    steps_per_epoch=2000,
    epochs=50,
    validation_data=validation_generator,
    validation_steps=800)

```

画像とマスクに対して、同時に変更を加える例.

```

# we create two instances with the same arguments
data_gen_args = dict(featurewise_center=True,
                      featurewise_std_normalization=True,
                      rotation_range=90.,
                      width_shift_range=0.1,
                      height_shift_range=0.1,
                      zoom_range=0.2)

image_datagen = ImageDataGenerator(**data_gen_args)
mask_datagen = ImageDataGenerator(**data_gen_args)

# Provide the same seed and keyword arguments to the fit and flow methods
seed = 1
image_datagen.fit(images, augment=True, seed=seed)
mask_datagen.fit(masks, augment=True, seed=seed)

image_generator = image_datagen.flow_from_directory(
    'data/images',
    class_mode=None,
    seed=seed)

mask_generator = mask_datagen.flow_from_directory(
    'data/masks',
    class_mode=None,
    seed=seed)

# combine generators into one which yields image and masks
train_generator = zip(image_generator, mask_generator)

model.fit_generator(
    train_generator,
    steps_per_epoch=2000,
    epochs=50)

```

ImageDataGeneratorメソッド

fit

```
2018/ fit(x, augment=False, rounds=1, seed=None)
```

与えられたサンプルデータに基づいて、データに依存する統計量を計算します。
featurewise_center, featurewise_std_normalization, または, zca_whiteningが指定されたときに必要です。

引数

- **x**: サンプルデータ。4次元データである必要があります。グレースケールデータではチャンネルを1に, RGBデータではチャンネルを3にしてください。
- **augment**: 真理値 (デフォルト: False) 。 ランダムにサンプルを拡張するかどうか。
- **rounds**: 整数 (デフォルト: 1) 。 augmentが与えられたときに, 利用するデータに対して何回データ拡張を行うか。
- **seed**: 整数 (デフォルト: None) 。 乱数シード。

flow

```
flow(x, y=None, batch_size=32, shuffle=True, seed=None, save_to_dir=None, save_prefix='', sa
```

numpyデータとラベルの配列を受け取り, 拡張/正規化したデータのバッチを生成します。

引数

- **x**: データ。4次元データである必要があります。グレースケールデータではチャンネルを1に, RGBデータではチャンネルを3にしてください。
- **y**: ラベル。
- **batch_size**: 整数 (デフォルト: 32) 。
- **shuffle**: 真理値 (デフォルト: True) 。
- **save_to_dir**: Noneまたは文字列 (デフォルト: None) 。 生成された拡張画像を保存するディレクトリを指定できます (行ったことの可視化に有用です) 。
- **save_prefix**: 文字列 (デフォルト: '') 。 画像を保存する際にファイル名に付けるプリフィックス (`set_to_dir` に引数が与えられた時のみ有効) 。
- **save_format**: "png"または"jpeg" (`set_to_dir` に引数が与えられた時のみ有効) 。 デフォルトは"png"。

戻り値

`x` が画像データのNumpy配列で `y` がそれに対応したラベルのNumpy配列である `(x, y)` から生成されるイテレータです。

flow_from_directory

```
2018/ flow_from_directory(directory, target_size=(256, 256), color_mode='rgb', classes=None, class
```

ディレクトリへのパスを受け取り、拡張/正規化したデータのバッチを生成します。

引数 - directory: ディレクトリへのパス。クラスごとに1つのサブディレクトリを含み、サブディレクトリはPNGかJPGかBMPかPPMかTIF形式の画像を含まなければいけません。詳細は[このスクリプト](#)を見てください。 - **target_size:** 整数のタプル (`height`, `width`)。デフォルトは (`256`, `256`)。この値に全画像はリサイズされます。 - **color_mode:** "grayscale"か"rgb"の一方。デフォルトは"rgb"。画像を1か3チャンネルの画像に変換するかどうか。 - **classes:** クラスサブディレクトリのリスト。（例えば, `['dogs', 'cats']`）。デフォルトはNone。与えられなければ、クラスのリスト自動的に推論されます（そして、ラベルのインデックスと対応づいたクラスの順序はalphanumericになります）。クラス名からクラスインデックスへのマッピングを含む辞書は `class_indices` 属性を用いて取得できます。 - **class_mode:** "categorical"か"binary"か"sparse"か"input"か"None"のいずれか1つ。デフォルトは"categorical"。返すラベルの配列のshapeを決定します："categorical"は2次元のone-hotにエンコード化されたラベル, "binary"は1次元の2値ラベル, "sparse"は1次元の整数ラベル, "input"は入力画像と同じ画像になります（主にオートエンコーダで用いられます）。Noneであれば、ラベルを返しません（ジェネレーターは画像のバッチのみ生成するため, `model.predict_generator()` や `model.evaluate_generator()` などを使う際に有用）。class_modeがNoneの場合、正常に動作させるためには `directory` のサブディレクトリにデータが存在する必要があることに注意してください。 - **batch_size:** データのバッチのサイズ（デフォルト: 32）。 - **shuffle:** データをシャッフルするかどうか（デフォルト: True）。 - **seed:** シャッフルや変換のためのオプションの乱数シード。 - **save_to_dir:** Noneまたは文字列（デフォルト: None）。生成された拡張画像を保存するディレクトリを指定できます（行ったことの可視化に有用です）。 - **save_prefix:** 文字列。画像を保存する際にファイル名に付けるプリフィックス（`set_to_dir` に引数が与えられた時のみ有効）。 - **save_format:** "png"または"jpeg"（`set_to_dir` に引数が与えられた時のみ有効）。デフォルトは"png"。 - **follow_links:** サブディレクトリ内のシンボリックリンクに従うかどうか。デフォルトはFalse。

戻り値

`x` が画像データのNumpy配列で `y` がそれに対応したラベルのNumpy配列である `(x, y)` から生成されるDirectoryIteratorです。

random_transform

```
random_transform(x, seed=None)
```

単一の画像のテンソルをランダムに拡張します。

引数

- **x**: 単一の画像である3次元テンソル.
- **seed**: ランダムシード.

戻り値

入力画像と同じshapeの入力画像をランダムに変換したもの.

standardize

```
standardize(x)
```

入力のバッチに対して正規化を適用します.

引数

- **x**: 正規化対象の入力のバッチ.

戻り値

正規化された入力.